



▲根滝漁場鮪定置網組（明治45年ころ）根滝漁場に鮪定置網の経営権のある組の大謀と漁師の記念写真と思われる。明治35年に漁業法と漁業組合規則が施行され、漁業の近代化が進んだ



▲祝日の日（明治末期～大正初期）通り沿いの家々は2階建てで、軒に国旗が掲げられ、子供たちも晴れ着で着飾っている。現在の国道45号、中央町である



▲織笠村の運動会（明治末期）織笠川河口で行われた運動会。右上には昆多漁業部の棧橋が見える

■主な出来事

元号（西暦）	主なできごと
明治22年（1889）	市町村制が実施され、飯岡・山田の2村、豊間根・石峠・荒川の3村がそれぞれ合併し、山田町、豊間根村、織笠村、船越村、大沢村の1町4村となる
明治24年（1891）	山田郵便局を山田郵便電信局と改称し、電信事務を開始
明治29年（1896）	三陸大津波で甚大な被害
明治37年（1904）	東京湾汽船会社所属の汽船が三陸海岸を就航
明治41年（1908）	三陸汽船株式会社が設立。汽船が宮古一塩釜間を就航

▶織笠橋の渡り初め（明治末期～大正時代）現在の橋より上流側に架けられた



明治後期、東京湾汽船（株）の汽船が本県沿岸を運航していたが、経営主体が県外であり、さまざまな制約もあって沿岸地域の住民にとって不便でした。明治四十一年、沿岸地域の要望により、釜石製鉄所長横山久太郎を社長に資本金三十万円（地元資金九〇％）で三陸汽船が設立され、木造貨客船東北丸など四艘を建造。宮古と塩釜との間にある主要港に寄航し、山田港でも多くの人々が利用しました。山田から宮古までは約二

時間で結ばれました。三陸汽船は沿岸航路だけでなく東京、北海道航路と発展し、明治四十四年、東京湾汽船は権利を三陸汽船に譲り撤退しました。大正、昭和と三十年間にわたり産業・経済・文化に果たした三陸汽船の役割は大きいものでした。しかし、国鉄山田線の全線開通により、汽船の利用客は激減。戦時体制の強化に伴い、昭和十八年栗林商船に吸収合併され、船は徴用船となって歴史の幕を閉じました。

三陸汽船が就航



▲庭先でくつろぐ（明治末期）雑貨屋の店先でビールを飲んでいる。店の棚にはマッチや駄菓子が並んでいる

山田町合併
50周年記念企画
History
of Yamada town

明治